

NDB データによる歯科医療費の動向調査に基づく検討
—歯科傷病の傷病量の妥当性、信頼性と有用性—

研究協力者 橋本 修二 藤田医科大学名誉教授
研究代表者 川戸 美由紀 国立保健医療科学院疫学・統計研究部上席主任研究官
研究分担者 三重野牧子 自治医科大学情報センター医学情報学准教授

研究要旨 検討課題の「その他の傷病統計に関する検討」の研究の一環として、NDBデータによる歯科医療費の動向調査に基づく歯科傷病の傷病量の妥当性、信頼性と有用性を検討した。傷病量として歯科医療費の動向調査に基づく1日平均患者数、別報告の「患者調査データの集計とNDBデータ利用に関する検討」による患者調査データに基づく歯科診療所の推計患者数を用いた。傷病分類として主傷病の歯科傷病分類を、患者調査の推計患者数との比較には主傷病の医科傷病分類を用いた。1日平均患者数について、その対数を目的変数、年と月を説明変数、2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）を対象データとする重回帰分析に基づいて、対象データの年月内の期待値と2020～2023年の予測値を算定し、年月別の観察値と期待値の比が近似的に95%の確率で入ると期待される範囲（誤差比の95%範囲と呼ぶ）を推定した。平日の1日平均患者数は患者調査の推計患者数に比べて、全歯科傷病では比較的一致したが、「歯肉炎及び歯周疾患」で多く、「う蝕」で少なく、歯科傷病別には一致しなかった。1日平均患者数の誤差比の95%範囲の上限は全歯科傷病では1.05未満と小さいものの、いくつかの歯科傷病では1.10以上と大きかった。2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）では、歯科傷病別1日平均患者数には大きな年次推移や月間変動の傾向がみられなかった。2020～2023年では、全歯科傷病の1日平均患者数には予測値との比較結果から2020年4・5月の大きな低下傾向がみられたが、歯科傷病別には十分に検討できなかった。以上より、主傷病の歯科傷病別1日平均患者数は、傷病量としての信頼性、妥当性と有用性の高さが十分には評価できず、さらなる議論と検討が必要と考えられた。

A. 研究目的

検討課題の「その他の傷病統計に関する検討」の研究の一環として、NDBデータによる歯科医療費の動向調査に基づく歯科傷病の傷病量の信頼性と有用性を評価するとともに、患者調査データに基づく傷病量との比較によって、その妥当性を検討した。一般に、測定（指標）の信頼性とは同じものを繰り返し測定したときの測定結果の近さを指し、誤差変動の大きさを評価でき、また、測定（指標）の妥当性とは測定したいものを正しく測定している程度を指し、適切な比較対照との

一貫性で評価できる。傷病量の有用性としては、2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）の年次推移と月間変動、2020～2023年の異常変動（COVID-19の影響を含む）を検討対象とした。

B. 研究方法

研究方法として、基本的な枠組みは本研究報告書の別報告の「NDBデータの集計と利用の提言に関する検討」と「NDBデータによる医科医療費の動向調査に基づく検討」と同様とし、歯科傷病を対象とすることに伴っ

て一部を変更し、以下の通りとした。

基礎資料として、歯科医療費の動向調査から得た、公表開始月の2018年4月～2025年3月の年月、主傷病の傷病分類別の診療実日数、および、別報告の「患者調査データの集計とNDBデータ利用に関する検討」の検討結果から得た、患者調査データに基づく歯科診療所の推計患者数（医療保険・公費等の推計外来患者数）を用いた。歯科医療費の動向調査はNDBの歯科レセプト情報に基づいている（医科レセプト情報を含まない）。傷病分類としては、歯科傷病分類（全傷病を含む19傷病）とし、患者調査データに基づく歯科診療所の推計患者数との比較には医科傷病分類（傷病中分類）を用いた。

傷病量としては、年（月）の1日平均患者数（＝「年（月）の診療実日数の合計」／「年（月）の日数」）を用いた。2018年4月～2025年3月の年月、傷病分類別に1日平均患者数を歯科医療費の動向調査データから計算した。この計算値は、後述する1日平均患者数の期待値、予測値と区別するとき、観察値と呼ぶ。

1日平均患者数の期待値は、1日平均患者数の対数を目的変数、年と月を説明変数、2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）を対象データとする重回帰分析に基づく、対象データの年月内の1日平均患者数の推定値の対数を指数変換した値で求めた。1日平均患者数の予測値は、対象データの年月外の2020～2023年で期待値と同様に計算した値とした。この解析では、1日平均患者数に年と月による乗法モデルを前提とし、また、COVID-19の影響による異常変動を含めないために、対象データには2020～2023年のデータを含めなかった。

妥当性については、医科傷病分類ごとに、2020年と2023年の各10月において、歯科医療費の動向調査データに基づく平日の1日平均患者数を、患者調査データに基づく歯科診療所の推計患者数と比較した。平日の1日平均患者数は「1日平均患者数」／「週間

診療状況の調整係数」で計算し、週間診療状況の調整係数には患者調査の総患者数推計の調整係数（6/7）を用いた。

信頼性については、歯科傷病分類ごとに、年月別1日平均患者数の観察値と期待値の比が近似的に95%の確率で入ると期待される範囲（誤差比の95%範囲と呼ぶ）を推定・検討した。誤差比の95%範囲の下限と上限は、前述の重回帰分析による誤差分散の推定値の平方根とそれぞれ、-1.96と+1.96との積を指数変換した値で求めた。また、全傷病について、対象データを2018年4月～2025年3月の7年分、2018年4月～2019年12月と2025年1～3月の2年分、および、その2年分に2020～2024年の各1年を加えた3年分として、同様の方法で誤差比の95%範囲を計算した。

有用性については、歯科傷病分類ごとに、2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）において、1日平均患者数の年次推移と月間変動を検討した。月間変動をみるため、各月の1日平均患者数を、同期間の該当月の1日平均患者数の平均値で求めた。2020～2023年の異常変動について、歯科傷病分類ごとに、年月別、1日平均患者数の観察値と予測値の比で検討した。

（倫理面への配慮）

本研究では、既存の統計資料と集計結果表を用い、いずれも個人情報を含まないため、個人情報保護に関する問題は生じない。

C. 研究結果

1. 妥当性の検討

表1-1に、2020年と2024年の各10月における医科傷病分類別、歯科医療費の動向調査データと患者調査データに基づく傷病量の比較結果を示す。「（歯科医療費の動向調査データに基づく平日の1日平均患者数）／{患者調査データに基づく推計患者数（歯科診療所の医療保険・公費等の推計外来患者数）}」の比をみると、全傷病では2020年で1.04

と2023年で1.06であり、比較的1.00に近かった。一方、それ以外の傷病（患者調査データに基づく推計患者数が0.1未満の傷病を除く）では1.00と大きく異なり、「歯肉炎及び歯周疾患」（2020年で2.08と2023年で1.92）をはじめ、「XI 消化器系の疾患」、「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」と「その他の損傷及びその他の外因の影響」では1.23～31.07であり、「う蝕」（2020年で0.34と2023年で0.40）をはじめ、「その他の歯及び歯の支持組織の障害」、「その他の消化器系の疾患」と「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」とそれに属する傷病では0.00～0.59であった。

2. 信頼性の検討

表2-1に、歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の誤差比について、全傷病の対象データ別を示す。誤差比の95%範囲の上限は、対象データが2018年4月～2025年3月で1.09、2018年4月～2019年12月と2025年1～3月で1.05であった。対象データが2018年4月～2019年12月と2025年1～3月に、2020～2024年の各年1～12月を加えた3年分の中では、2020年1～12月を加えた場合が1.13と最も大きく、2024年1～12月を加えた場合が1.04と最も小さかった。

表2-2に、歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の誤差比について、歯科傷病分類別を示す。対象データは2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）である。19歯科傷病分類の中で、1日平均患者数の誤差比の95%範囲の上限は13傷病で1.10未満、3傷病（「顎骨疾患等」、「口腔粘膜疾患」、「良性新生物＜腫瘍＞等」）で1.14～1.30であった。

図1-1に、歯科医療費の動向調査データに基づく1日平均患者数の観察値と期待値における2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）の年月推移について、全傷

病を示す。なお、図中の2020～2023年の予測値に関する結果は後述の異常変動の節に記述する。1日平均患者数の観察値は2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）で期待値とよく一致していた（両者の比は0.97～1.03）。

3. 有用性の検討

（1）年次推移

表3-1に、歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の年次推移について、歯科傷病分類の2018年4月～2025年3月を示す。1日平均患者数の2024年/2019年の比をみると、全傷病で0.99であり、それ以外の歯科傷病分類で0.89～1.28であった。1日平均患者数の2020年/2019年の比をみると、全傷病で0.94であり、それ以外の歯科傷病分類で0.82～0.99であった。

（2）月間変動

表3-2に、歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の月間変動について、歯科傷病分類別を示す。対象データは2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）である。1日平均患者数の最大月/最小月の比は、全傷病で1.17であり、各歯科傷病分類で1.13～1.37であった。

（3）異常変動

図1-1に、歯科医療費の動向調査データに基づく1日平均患者数の観察値と予測値における2020～2023年の年月推移について、全傷病を示す。1日平均患者数の観察値は予測値と比べて、2020年4月と5月でかなり低く、2022年7月までやや低い傾向、それ以降に同程度の傾向であった。観察値/予測値の比をみると、2020年1～3月で0.97～1.04、2020年4・5月で0.78～0.80、2020年6月～2022年7月で0.92～1.02、2022年8月～2023年12月で0.95～1.02であった。

D. 考察

歯科医療費の動向調査は、NDB データの歯科レセプトに基づいている。昨年度の本研究報告書の「その他の傷病統計に関する検討—歯科傷病に関する検討—」に示した通り、歯科レセプトには入院や病院の様々な傷病の患者を含むものの、ほとんどは外来の歯科診療所の歯科系傷病の患者である。傷病量としてみると、歯科レセプトの対象患者は、実質的に、歯科診療所の受療患者（患者調査の歯科診療所の対象患者と同様）とみてよい。一方、歯科系傷病について、歯科レセプトには、各傷病に対して主傷病か否かと診療開始日が記載されない。そのため、歯科レセプトでは、医科レセプトのように、主傷病の適切な選択基準が設定できないと考えられる。歯科医療費の動向調査では、主傷病として、実質的に、歯科レセプトの最初に記載された傷病を選択しているものと思われる。

傷病量の妥当性について、歯科医療費の動向調査に基づく平日の1日平均患者数と患者調査データに基づく推計患者数との比をみると、全傷病では2020年で1.04と2023年で1.06であり、1.00と比べて若干大きいものの比較的近かった。これは、前述の通り、歯科レセプトの傷病量としての対象患者が、実質的に、患者調査の歯科診療所の推計患者数のそれと同様とみてよいことを支持している。一方、医科傷病分類別にみると、この比は、代表的な歯科系傷病の「歯肉炎及び歯周疾患」（2020年で2.08と2023年で1.92）できわめて高く、逆に「う蝕」（2020年で0.34と2023年で0.40）できわめて低かった。本研究報告書の別報告の「NDBデータの集計と利用の提言に関する検討」での医科レセプトの検討結果と大きく異なった。これは、前述の通り、歯科レセプトでは、医科レセプトと異なり、主傷病の適切な選択基準が設定できないことによるものと考えられる。したがって、歯科医療費の動向調査に基づく1日平均患者数について、傷病量として高い妥当性を有するとは評価できなかった。

本検討においては、本研究報告書の別報告の「NDBデータによる医科医療費の動向調査に基づく検討」と同様に、歯科医療費の動向調査に基づく1日平均患者数の信頼性と有用性を検討した（この検討方法の詳細な議論は別報告を参照）。信頼性については、誤差比の95%範囲の上限をみると、全歯科傷病をはじめ、13傷病で1.10未満であったが、3傷病（「顎骨疾患等」、「口腔粘膜疾患」、「良性新生物＜腫瘍＞等」）で1.10以上であった。したがって、歯科医療費の動向調査に基づく1日平均患者数の信頼性については、これらの3傷病であまり高くない可能性があることから、さらなる議論や検討が必要であろう。

傷病量の有用性として、歯科傷病分類別の1日平均患者数の年次推移、月間変動と異常変動を検討した。その検討結果から、2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）において、歯科傷病では大きな年次推移や大きな月間変動がみられなかった。2020～2023年の異常変動として、全歯科傷病では1日平均患者数の観察値が予測値と比べて、2020年4・5月での大きな低下、2022年7月までのやや低い傾向、それ以降の同程度の傾向がみられたが、歯科傷病別ではその妥当性と信頼性の課題から十分に検討できなかった。したがって、歯科医療費の動向調査に基づく1日平均患者数について、傷病量として有用性の高さを十分に評価できなかった。

E. 結論

平日の1日平均患者数は患者調査の推計患者数に比べて、全歯科傷病では比較的一致したが、「歯肉炎及び歯周疾患」で多く、「う蝕」で少なく、歯科傷病別には一致しなかった。1日平均患者数の誤差比の95%範囲の上限は全歯科傷病では1.05未満と小さいものの、いくつかの歯科傷病では1.10以上と大きかった。2018年4月～2025年3月（2020～2023年を除く）では、歯科傷病

別 1 日平均患者数には大きな年次推移や月間変動の傾向がみられなかった。2020～2023 年では、全歯科傷病の 1 日平均患者数には予測値との比較結果から 2020 年 4・5 月の大きな低下傾向がみられたが、歯科傷病別には十分に検討できなかった。以上より、主傷病の歯科傷病別 1 日平均患者数は、傷病量としての信頼性、妥当性と有用性の高さが十分には評価できず、さらなる議論と検討が必要と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

なし。

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

図 1-1. 歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の年月推移
：全傷病、2018 年 4 月～2025 年 3 月

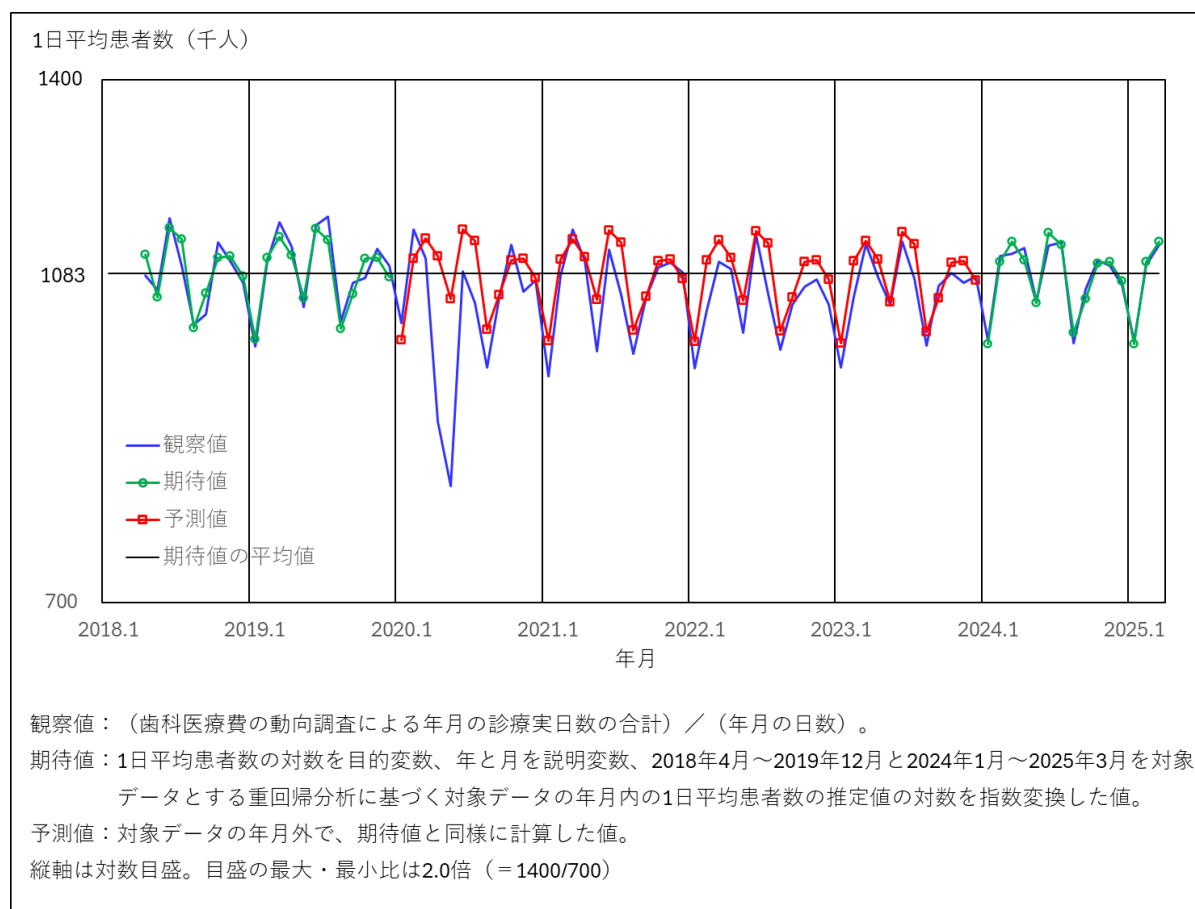


表 1-1. 歯科医療費の動向調査データと患者調査データに基づく傷病量の比較
： 医科傷病分類、2020・2023 年の各 10 月

傷病分類	歯科医療費の動向調査 データに基づく 平日の1日平均患者数 (千人) ^{#1}		患者調査 データに基づく 推計患者数 (千人) ^{#2}		比 ^{#3}	
	2020年 10月	2023年 10月	2020年 10月	2023年 10月	2020年 10月	2023年 10月
全傷病	1,312.37	1,264.35	1,267.30	1,190.80	1.04	1.06
I 感染症及び寄生虫症	0.81	0.70	0.00	0.00	－	－
II 新生物く腫瘍>	3.44	3.39	0.00	0.00	－	－
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	0.12	0.10	0.00	0.00	－	－
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.18	0.20	0.00	0.00	－	－
V 精神及び行動の障害	1.74	1.98	0.00	0.00	－	－
VI 神経系の疾患	0.53	0.56	0.00	0.00	－	－
VII 眼及び付属器の疾患	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
IX 循環器系の疾患	0.21	0.22	0.00	0.00	－	－
X 呼吸器系の疾患	0.57	0.57	0.00	0.00	－	－
XI 消化器系の疾患	1,246.72	1,199.79	1,011.00	944.73	1.23	1.27
う蝕	97.50	85.39	285.34	214.15	0.34	0.40
歯肉炎及び歯周疾患	1,017.23	993.03	489.98	518.00	2.08	1.92
その他の歯及び歯の支持組織の障害	120.64	110.79	213.55	188.47	0.56	0.59
その他の消化器系の疾患	11.30	10.53	22.13	24.11	0.51	0.44
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	0.73	0.68	0.00	0.00	－	－
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.33	0.32	0.00	0.00	－	－
XVI 腎尿路生殖器系の疾患	0.02	0.03	0.00	0.00	－	－
XV 妊娠、分娩及び産じょく	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
XVI 周産期に発生した病態	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.66	0.67	0.00	0.00	－	－
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査 所見で他に分類されないもの	2.00	3.23	0.00	0.00	－	－
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	47.05	45.72	1.74	1.47	27.07	31.07
骨折	0.40	0.42	0.00	0.00	－	－
頭蓋内損傷及び内臓の損傷	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
熱傷及び腐食	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
中毒	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
その他の損傷及びその他の外因の影響	46.65	45.30	1.74	1.47	26.83	30.79
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健 サービスの利用	0.00	0.01	254.57	244.60	0.00	0.00
健康者に対する検査・健康診断(査)・管理	0.00	0.00	22.34	31.00	0.00	0.00
歯の補てつ	0.00	0.00	227.80	207.81	0.00	0.00
その他の保健サービス	0.00	0.00	4.43	5.78	0.00	0.00
XXII 特殊目的用コード(COVID-19など)	0.00	0.00	0.00	0.00	－	－
不詳	7.22	6.16	0.00	0.00	－	－

^{#1}: (平日の1日平均患者数) = (月の診療実日数の合計) / ((月の日数) × (週間診療状況の調整係数))

^{#2}: 歯科診療所の医療保険・公費負担のみ等による患者

^{#3}: (歯科医療費の動向調査に基づく平日の1日平均患者数) / (患者調査データに基づく推計患者数) の比

－: (患者調査データに基づく推計患者数) が 0.1 千人未満

： 比が 0.67 未満

： 比が 1.50 以上

表 2-1. 歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の誤差比：全傷病、対象データ別

対象データの年次								誤差比の95%範囲
2018年 4～12月	2019年 1～12月	2020年 1～12月	2021年 1～12月	2022年 1～12月	2023年 1～12月	2024年 1～12月	2025年 1～3月	
○	○	○	○	○	○	○	○	0.920 ～ 1.086
○	○	-	-	-	-	-	○	0.955 ～ 1.047
○	○	○	-	-	-	-	○	0.888 ～ 1.126
○	○	-	○	-	-	-	○	0.951 ～ 1.051
○	○	-	-	○	-	-	○	0.951 ～ 1.051
○	○	-	-	-	○	-	○	0.959 ～ 1.043
○	○	-	-	-	-	○	○	0.964 ～ 1.037

誤差比の95%範囲：年月別1日平均患者数の観察値と期待値の比が近似的に95%の確率で入ると期待される範囲。

1日平均患者数の観察値：（歯科医療費の動向調査による年月の診療実日数の合計）／（年月の日数）。

1日平均患者数の期待値：1日平均患者数の対数を目的変数、年と月を説明変数とする重回帰分析による
1日平均患者数の対数の期待値を指数変換した値。

○：重回帰分析の対象データに該当期間を含む。－：重回帰分析の対象データに該当期間を含まない。

表 2-2. 歯科医療費の動向調査データに基づく傷病量の誤差比
： 歯科傷病分類、2018 年 4 月～2019 年 12 月と 2024 年 1 月～2025 年 3 月

傷病分類	誤差比の95%範囲
全傷病	0.964 ～ 1.037
う蝕	0.960 ～ 1.042
感染を伴わない歯牙慢性硬組織疾患	0.956 ～ 1.046
歯髄炎等	0.963 ～ 1.038
根尖性歯周炎(歯根膜炎)等	0.961 ～ 1.040
歯肉炎	0.958 ～ 1.043
歯周炎等	0.964 ～ 1.037
歯冠周囲炎	0.953 ～ 1.050
顎、口腔の炎症及び膿瘍	0.943 ～ 1.060
顎、口腔の先天奇形及び発育障害	0.950 ～ 1.053
顎機能異常	0.953 ～ 1.049
顎、口腔の嚢胞	0.936 ～ 1.069
顎骨疾患等	0.880 ～ 1.136
口腔粘膜疾患	0.873 ～ 1.145
悪性新生物＜腫瘍＞等	0.927 ～ 1.079
良性新生物＜腫瘍＞等	0.767 ～ 1.304
口腔、顔面外傷及び癒合障害等	0.947 ～ 1.056
補綴関係（歯の補綴）	0.959 ～ 1.043
その他	0.929 ～ 1.076

誤差比の95%範囲：年月別1日平均患者数の観察値と期待値の比が近似的に95%の確率で入ると期待される範囲。

1日平均患者数の観察値：（歯科医療費の動向調査による年月の診療実日数の合計）／（年月の日数）。

1日平均患者数の期待値：1日平均患者数の対数を目的変数、年と月を説明変数、2018年4月～2019年12月と2024年1月～2025年3月を対象データとする重回帰分析に基づく、対象データの年月内の1日平均患者数の推定値の対数を指数変換した値。

表 3-1. 歯科医療費の動向調査の傷病量の年次推移：歯科傷病分類、2018 年 4 月～2025 年 3 月

傷病分類	1日平均患者数（千人）								2024年/ 2019年の 比	2020年/ 2019年の 比
	2018年 4～12月	2019年 1～12月	2020年 1～12月	2021年 1～12月	2022年 1～12月	2023年 1～12月	2024年 1～12月	2025年 1～3月		
全傷病	1,082.21	1,091.95	1,030.28	1,060.14	1,047.35	1,061.76	1,078.35	1,070.46	0.99	0.94
う蝕	84.91	83.41	77.07	75.91	74.63	74.42	73.94	73.89	0.89	0.92
感染を伴わない歯牙慢性硬組織疾患	5.01	5.05	4.82	4.77	4.80	4.76	4.70	4.67	0.93	0.95
歯髄炎等	22.72	21.93	20.69	19.52	19.39	19.31	18.97	18.61	0.86	0.94
根尖性歯周炎（歯根膜炎）等	42.32	41.80	38.84	37.31	37.20	36.66	35.71	34.62	0.85	0.93
歯肉炎	70.72	71.90	70.56	76.17	73.58	74.70	77.05	78.43	1.07	0.98
歯周炎等	747.73	758.29	718.91	746.74	737.76	750.73	766.12	760.56	1.01	0.95
歯冠周囲炎	4.45	4.50	4.47	4.57	4.44	4.38	4.36	4.23	0.97	0.99
顎、口腔の炎症及び膿瘍	1.90	1.97	1.91	2.01	2.04	2.15	2.21	2.15	1.12	0.97
顎、口腔の先天奇形及び発育障害	7.21	7.48	7.41	8.20	8.24	8.47	8.83	8.90	1.18	0.99
顎機能異常	3.57	3.71	3.56	3.83	3.91	4.04	4.20	4.26	1.13	0.96
顎、口腔の嚢胞	0.32	0.34	0.31	0.34	0.35	0.35	0.37	0.36	1.10	0.92
顎骨疾患等	0.16	0.18	0.15	0.16	0.16	0.18	0.18	0.17	0.98	0.85
口腔粘膜疾患	7.44	8.18	7.35	7.37	7.24	6.97	6.80	6.51	0.83	0.90
悪性新生物＜腫瘍＞等	1.36	1.41	1.31	1.29	1.25	1.29	1.34	1.33	0.95	0.93
良性新生物＜腫瘍＞等	0.91	1.16	0.95	0.95	0.93	0.98	1.00	0.98	0.86	0.82
口腔、顔面外傷及び癒合障害等	1.19	1.17	1.01	0.99	0.97	1.00	1.02	1.03	0.87	0.86
補綴関係（歯の補綴）	63.33	62.83	56.80	55.55	56.07	56.44	55.49	53.36	0.88	0.90
その他	8.95	9.58	9.14	9.88	10.24	10.97	12.23	12.98	1.28	0.95

表 3-2. 歯科医療費の動向調査の傷病量の月間変動：歯科傷病分類、2018 年 4 月～2019 年 12 月と 2022 年 1 月～2024 年 3 月

傷病章分類	1日平均患者数（千人）												最大月/ 最小月の 比
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
全傷病	988.4	1,101.7	1,132.2	1,107.9	1,046.7	1,148.0	1,130.7	1,005.5	1,052.2	1,102.9	1,105.1	1,077.0	1.16
う蝕	71.5	79.2	81.9	82.0	76.9	87.6	85.4	77.7	76.0	79.5	80.7	79.6	1.23
感染を伴わない歯牙慢性硬組織疾患	4.6	5.0	5.1	5.0	4.8	5.1	5.0	4.5	4.6	5.0	5.1	5.1	1.14
歯髄炎等	18.4	21.1	20.8	22.1	20.6	22.2	21.9	19.2	20.2	21.3	21.6	20.8	1.21
根尖性歯周炎(歯根膜炎)等	35.0	39.4	39.0	41.8	39.7	42.1	41.5	36.6	38.2	40.1	40.2	38.0	1.20
歯肉炎	65.4	72.4	87.0	72.5	63.5	79.9	82.5	81.3	67.3	69.2	70.3	75.0	1.37
歯周炎等	698.5	777.8	789.8	773.9	736.2	800.8	785.3	686.3	743.6	779.7	777.7	751.8	1.17
歯冠周囲炎	4.0	4.6	4.6	4.4	4.2	4.6	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.3	1.17
顎、口腔の炎症及び膿瘍	1.9	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	2.0	2.0	2.1	2.1	2.0	1.13
顎、口腔の先天奇形及び発育障害	7.3	8.6	9.2	7.7	7.1	8.0	8.3	8.8	7.7	7.7	7.8	7.5	1.30
顎機能異常	3.7	4.2	4.3	3.9	3.8	4.0	3.9	3.6	3.7	3.9	3.9	3.8	1.18
顎、口腔の嚢胞	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	1.18
顎骨疾患等	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	1.22
口腔粘膜疾患	6.3	7.2	7.7	7.9	7.5	7.8	7.7	7.0	7.1	7.5	7.5	7.5	1.25
悪性新生物＜腫瘍＞等	1.2	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4	1.16
良性新生物＜腫瘍＞等	0.9	1.0	1.2	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.34
口腔、顔面外傷及び癒合障害等	1.0	1.1	1.1	1.1	1.2	1.2	1.1	1.0	1.0	1.2	1.2	1.2	1.31
補綴関係(歯の補綴)	53.1	59.4	59.4	63.6	60.4	62.3	61.2	54.4	57.6	61.6	62.6	61.2	1.20
その他	10.3	11.6	11.7	10.2	9.8	10.5	10.7	10.1	10.1	10.8	10.8	10.6	1.20

月別の1日平均患者数：月別の2018年4月～2019年12月と2022年1月～2025年3月の平均値。